

# 新 関西談 笑

## 阪神大震災で目を開かれた 学問は役に立たないとダメ。

——先生は学生時代は学問に励んで、災害研究の分野で世界的な研究者となったということですね

河田 僕？ 京大入ったけど、ろくすっぽ授業にでずに、さぼりまくって、教室いかずに、クラブの部屋に通っていたよ(笑)。

——今、学生たちに言っていることと少し違っていますか？

河田 山登りばかりしていた。卒業したら、山小屋でもつくって、そこで住もうかとボケッと考えてた。

——ずっとそんな調子だったのですか。転機は

河田 山で死にかけたから。3回生になって、本格的に勉強せいかんといわれながら、山ばかり登ってた。そして、4回生のはじめに、冬の穂高に僕がリーダーで4人のパーティーで行ったんだけど、頂上近くでミソシが降ってきて、雷が鳴りだした。それで、下

### 関西大学社会安全学部長 河田 恵昭さん



(渡守麻衣撮影)

山しようというところになった。僕がトップで急な雪渓を下りはじめて、あとに3人が続いたんだけど、僕の後ろの同級生が滑落した。

——どこまで落ちたんですか

河田 彼が気を失った状態で僕のところまで滑ってきたので、飛びついてそのつを捕まえるのが精いっぱい、そのまま一緒に滑っていた。そのとき、これで死ぬかも分からなと思

った。それで、後方に流れていたピッケルバンドを手繰り寄せて、ピッケルシャフトを股の間に突き刺した。そしたら、スピードが落ちてきて、ゆるい勾配でとまった。

河田 彼が気を失った状態で僕のところまで滑ってきたので、飛びついてそのつを捕まえるのが精いっぱい、そのまま一緒に滑っていた。そのとき、これで死ぬかも分からなと思

——同級生の方は無事だったんですか

河田 顔中血だらけで気を失ってただけで、背負えないから、一発顔をなぐって正気にさせて、おぼろげで下山した。その晩、寝袋

河田 はじめ、官僚になろうと思って勉強を始めた。建設省か運輸省(現在はともに国土交通省)かね。海が好きだったのと、当時、運輸省の方が若くして局長になれたので、港湾局長を目指して海岸工学の講座に

入った。ところが、図らずも、講座の教授が防災研究所に移ったため、僕もそこへ連れていかれ、海岸災害という講座で一期生となった。

——官僚と研究者とどちらが良かったですか

河田 今の環境でいうと絶対研究者だね。はるかに社会に対する影響力が大きいかからね。官僚は各利益だけを考えて横断的に意思決定しない。それでは国民目線ではおかしいことになってしまつ。でもね、研究者としては阪神大震災で目を開かれたと思っている。学問は自己満足になりがちだが、世の中に役に立たないとダメということが身になりました。

——今の政治家は哲学がないという話ができましたが、政治家に興味は

河田 あと、10年若かったら、大阪府知事に挑戦していたかも知らんね。今はこういう立場だから後進を育てることに全力をあげるけど。(聞き手 北村理)

